

＜指導上のポイントと考察＞

◆主題学習の実施時期について

この主題学習をはじめに思いついたときには、

①中学までの学習到達度を確認する。

②「諸地域の生活・文化の地理的考察」の単元で毎時間の授業の導入として利用し、興味関心を高める。ということねらいとしていた。実施回数を重ねるごとに実施方法の精選を行い目標が変化した部分もあるが、やはりこの主題学習は当初のねらいが基本である。

そのため実施時期としては、「(2)地域性を踏まえてとらえる現代世界の課題」の学習の導入段階で時間を確保するのが適当であろう。

◆対象生徒の様子

今年度本校では、「地理A」は2年生を対象に「日本史A」との選択で開講している。そのため地理A選択者は、地理分野に対して興味をもった生徒が多いと感じる。また実施クラスの生徒の多くは中学校までに基礎的な学習内容を習得しており、商業高校ではあるが普通教科に対する興味関心が高いため、主題学習を実施するには非常に適している。今回の主題学習に関しても非常に意欲的に取り組んだが、中学校までの知識を基礎に課題に取り組んでいるため、世界的な視野や地理的な視点からの考察は若干弱い面もあり、補足解説が必要と考える。

◆実践の成果と反省点

1. 評価について

今回の主題学習は、①課題を作成した生徒自身の自己評価

②発表に対する生徒評価

③教科担任の評価

という3つの側面から主題学習を評価しようと試みた。しかし、実際に主題学習を実施して評価する際、この①～③のすべてを点数化するのではなく、最終的にはA～Dの4段階にまとめて評価した。

なぜなら①・②については、評価として単純に利用するために実施するというよりはむしろ、自己評価や他者評価を行うことで思考力や理解力、表現力がより高まるきっかけになることの方が、実施の成果として有効であると感じたからである。また、生徒の評価は客観性にやや欠ける。そこで、①・②は生徒の意欲や思考力をはかるものとして利用するにとどめ、③に重点を置いて総合的に4段階評価することにしたのである。

主題学習の評価についてはまだまだ改善すべき点が多く、今後新たな方法に取り組んで、より有効な評価基準を作成していきたい。

2. 地理的技能の習得について

世界的な視野や地理的な視点からの考察ができるようになるためには、まずは必要な地理情報を収集して活用する能力を身につけなければならない。今回利用した地理情報は

①学校図書館の地図・文書・統計などの資料

②学校内のパソコンを利用したインターネットによる情報

③学校外の図書館や自宅などにある資料

であり、生徒はおおむね効果的に情報を取捨選択して主題学習に取り組んでいた。

反省としては、レポートに参考資料を記述させるべきであった点が挙げられる。生徒に対して、情報源を明確にしておく意識づけのためにも必要であった。

◆主題学習レポートの利用方法

今回の授業実践では3名のみの発表であったが、発表者以外の生徒のレポートは今後の授業に活用していく。その方法の具体例を、前年度実施した方法をもとに以下にまとめておく。

(1) 地理的内容のトピックス(小話・裏話)として、授業の冒頭に生徒の興味関心を引き付けるために利用する。 ※授業内容との関連性は低い

(2) 諸地域の生活・文化を考察する導入として利用し、授業で取り上げる地域に対する生徒の興味関心を高める。 ※授業内容との関連性は高い

(3) 時事問題や流行、季節の話題など最新の情報に関連させて利用し、それらの情報について地理的考察を深めるために解説を加える。

(4) 地域性を追求するための具体例として利用し、必要に応じて政治、経済、生物、地学的な事象などに発展させて考察させる。

(5) 各地域が抱える諸問題や地球的課題を地理的に考察する具体例として利用する。

平成15年度教育過程研究集会 実践発表「地理A」

岐阜県立中津商業高等学校 佐伯 佳世

主題学習 興味をもった世界の生活・文化についてテーマを決めて紹介しよう

□単元の目標

世界諸地域の生活・文化を地理的環境や民族性と関連付けて追求し、生活・文化を地理的に考察する視点や方法を身に付けさせるとともに、異文化を理解し尊重することが必要であることについて考察させる。

□単元ごとの評価基準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
世界諸地域の生活・文化について、事例地域を取り上げて地理的環境や民族性と関連付けて追求する学習に意欲的に取り組んでいる。	世界の諸地域の生活・文化に関する地理的事象から適切な課題を設定し、設定した課題を世界的視野から大観するとともに事例地域を取り上げて地理的環境や民族性と関連付けて多面的・多角的に追求している。	世界諸地域の生活・文化を世界的視野から大観するとともに事例地域を取り上げて地理的環境や民族性と関連付けてとらえるために、地図や画像、文書や統計などの資料を収集して読み取り、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現して報告書にまとめている。	世界諸地域の生活・文化について、事例として取り上げた地域の生活・文化を地理的環境や民族性と関連付けて考察する視点や方法を理解し、その知識を身に付けている。

□各授業時間ごとの主な内容

	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
第1・2時間目	○興味をもった世界諸地域の生活・文化について、各自でテーマを設定して課題追求学習を行う。	○意欲的に課題追求学習に取り組めそうなテーマの設定を行う。【関】 ○図書館にある地図や画像、文書や統計などの資料やインターネットを利用したり、また各自で独自に収集した資料を利用して、テーマに関する調査を行う。【思】【技】 ○まとめたレポートについて、客観的な視点で自己評価する。【思】【技】	○必要な情報を迅速、的確に収集 ○自己評価 ○レポート提出 ○行動観察
第3時間目	○事前提出されたレポートにより、3名の発表を行う。 ○質疑応答を行う。 ○発表者を評価する。	○発表者はテーマ内容の解説とともに、自分の作成したレポートについての自己評価とをあわせて発表する。【技】【知】 ○発表者以外の生徒は、発表内容について理解を深め、質問・意見・問題点などを発言する。【思】【知】 ○各自で所定の評価・感想用紙に発表者の評価を記入する。【思】【知】	○レポート発表 ○発表を聞いて要点を理解し、質問・意見・問題点などを発言 ○評価・感想用紙を提出 ○行動観察

<学習指導案>

日 時	平成 15 年 7 月 4 日 (金) 第 2 時限	指導クラス	2 年 D E 組 (男子 12 名 女子 25 名)	指導者	佐伯 佳世
教科 (科目)	地理 A	単元名	主題学習:興味をもった世界の生活・文化についてテーマを決めて紹介しよう		
本時主題	主題学習に関する発表と評価			(3 時間目 / 3 時間)	
本時の 目 標	①主題学習でまとめたテーマの内容を発表することができる。				【技能・表現】
	②発表者のテーマに興味関心をもち、発表内容について理解を深めることができる。				【関心・意欲・態度】【知識・理解】
	③発表内容から意見や疑問点、今後の課題などをみいだし、発言をすることができる。				【思考・判断】
	④3 人の発表者の発表内容や自分のまとめた内容とを比較して、発表者を客観的に評価することができる。				【思考・判断】
指導の内容・ねらい		学 習 活 動		指導上の留意点・観点別評価	
○主題学習のねらいと評価の観点を再確認できる。		○事前に提出された全員のレポートの概要を知り、主題学習のねらいと評価の観点を再確認する。 ・主題学習のねらいに合致したレポートの例を知る。 ・テーマの設定方法、資料の収集の仕方やレポートのまとめ方等、レポート作成での評価の観点を理解する。		○全員のレポートの内容を詳細に説明してしまわないで、各自がレポート発表を自由な視点で考察できるように配慮する。【関】【思】	
○本時の発表・評価の方法を理解できる。		○発表者を決定し、発表の方法と質疑応答の方法、評価の方法を理解する。 ・発表者の決定をする (3 名)。 ・発表の手順、発表に対する対応等を知る。 ・評価・感想用紙を配布し、記入方法を知る。 用紙に示した評価の方法〈5 点満点で採点〉 1. 興味を引くテーマ設定であったか。 2. みやすいように工夫されているか。 3. テーマについて理解が深まったか。 4. 総合評価(満足度)。 5. 感想を自由に書く。		○あとに行う発表に対して的確な評価ができるように、レポート作成の評価の観点を明確に示す。【思】 ○評価・感想用紙の記入は、主観的評価にかたよらず客観的に評価するように指導する。【思】	
(経過時間) 10 分					
○発表と質疑応答、評価 ・3 名×10 分		○発表者によるレポート発表、質疑応答と評価を行う ・発表者は、次の要領で発表する。 1. テーマ設定の理由を説明する。 2. レポート内容を解説する。 3. 自己評価の高い点と低い点とを考察する。 4. 意見、質問等に対して答えられる範囲で回答する。 ・発表者以外の生徒は、次の要領で発表を聞く。 1. 発表に興味関心をもって聞く。 2. 発表内容に関して理解を深め、意見、質問等を発言する。 3. 評価・感想用紙に客観的評価を記入する。		○発表者は、聞く側の興味関心を引き出すような発表になるよう工夫する【技】 ○発表者以外の生徒は、意欲的な態度で発表を聞く。【関】【知】 ○発表に対する意見・質問等が発表者の知識理解の範囲を超えた場合は、後日調べて回答させたり教科担任が解説したりと、状況に応じて対応する。【思】【知】	
40 分		○発表と質疑応答により地理的に考察する視点や方法を養うために、適宜教員からの説明を聞いて理解を深める。		○評価方法 ・意欲的な聞く態度 ・発問、挙手、発表	
○まとめ ・評価をまとめる ・発表に対する講評により発表内容を再考察することができる。		○3 名の発表内容や自分のレポート内容とを比較して、評価・感想用紙に記入した内容を再確認して、提出する。 ・評価・感想用紙は後日発表者へそのまま返却される。 ○本時のまとめとして、発表に対する講評を聞いて今後の各自の発表に活かすように考察を深める。 ・発表者以外のレポートについては、今後の授業で発表したり利用したりしていくことを確認する。		○すべての発表が終了した段階で再考察させて、提出させる。【思】 ○主題学習と発表・評価を通してさらに地理的思考・判断力や資料活用 of 技能・表現能力を高めさせるように考慮して、最後にまとめの講評を行う。【思】【技】 ○評価方法 ・評価・感想用紙の提出	
50 分					